

「スキューバダイビング」

宇宙にいるような
無重力感を味わいに

長野ガス株式会社

代表取締役社長 **林部 大輔氏**



—海中の景色は、同じ国内でも季節や場所によって違いが楽しめるのですね。

私が拠点にしている西伊豆は、複雑に入り組んだダイナミックな岩場やキンギョハナダイ、スズメダイの仲間など色鮮やかな魚類を観察できます。年に1度は家族旅行を兼ねて沖縄の座間味島に出かけるのですが、こちらは透明度が高く、海中深くまで太陽光の届く開放感あふれる海です。カラフルな熱帯魚は数も種類も豊富で、大好きなウミガメに初めて出会ったのもここ。最近ではウミウシという、種類によって様々な色合いを持つ生き物をカメラに収めるのに凝っています。今後は構図を勉強して、よい写真を撮りたい。ダイビングを通じて、ますます楽しみが広がりそうです。

Profile

■林部 大輔 (はやしべ・だいすけ)
昭和47(1972)年1月生まれ。大学卒業後、空調関係の会社勤務を経て平成11年に同社に入社、同26年から現職。趣味はほかに釣り。冬場は野尻湖でワカサギ釣りを楽しむ。

■長野ガス株式会社
LPガス・灯油の販売、同器具販売、ガス・石油工事設計施工、浴室増改築工事、システムキッチン販売など。創業昭和31(1956)年。本社長野市高田字藤倉1516番地。



会員の趣味を紹介するシリーズ。第十回は長野ガス株式会社代表取締役社長の林部大輔さんに、スキューバダイビングの魅力を聞いた。

—スキューバダイビングのライセンスをお持ちで、よく近海へ潜りに行くそうですね。

西伊豆を中心に、時間を見つけては出かけます。ライセンスを取ったのは20年以上前。大学の卒業旅行で訪れたバリ島で友人に誘われ、4日間の講習を受けて水深18mまで潜れる初級ライセンスを手に入れました。就職後は特に興味が向かなかったのですが、30代になって仕事以外の世界にも視野を広げようと、ふとライセンスの存在を思い出しました。インストラクターがサポートしてくれる国内ツアーに参加してスキルを磨くうち、陸上では味わうことのできない無重力感に魅かれ、繰り返し足を運ぶようになりました。現在はレスキューダイバーのライセンスを持っています。

—海中独特の「無重力感」が魅力なんですね。

ダイバーがまず身に付けるスキルに「中性浮力」というものがあります。ウエットスーツの上に着ける「BC」と呼ばれる装備への空気の出し入れと、呼吸を通して自分の肺に送り込む空気量の調節によって、浮き沈みのないフラットな状態を保てるようになります。飛んでいるのとも浮いているのとも違う、なんとも言えない感覚。これこそがダイビングの一番の魅力です。海底が見えない深い海中は、まるで宇宙のよう。周りの魚たちはよほど驚かさな限り逃げませんので、間近で観察したり、自らも同化したり。地球に生かされているんだなあ……と、人生観も変わりましたね。